

いちのみやの芸術文化

- 加入団体の紹介
- これからの催し
- 一宮市博物館から

一宮を学ぶ
特集

「妙興寺そぞろ歩き」

2008.3

第4号

一宮市芸術文化協会

妙興寺復原模型(部分)

一宮市には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

妙興寺そぞろ歩き



▲ 木造大応国師坐像(重要文化財)

市内大和町妙興寺の地名にもなっている妙興寺(臨済宗妙心寺派長島山妙興報恩禅寺)は、「尾張に杉田(過ぎた)の妙興寺」と俗に称され、現在も格高く「大寺」と呼ばれる名刹です。創建は貞和4年(1348)で、伽藍の完成は18年後の貞治4年(1365)

といわれており、中島郡中島村(現一宮市萩原町)出身の滅宗宗興【円光大照禅師】が父母の恩に報いるために建立したといわれます。滅宗は創建にあたり自らの「拜塔はいとう嗣法しほう」の師である南浦紹明【円通大応国師】を勧請開山に仰ぎました。滅宗自身は創建

開山かいざんとなり、大応国師以後、大徳寺開山大燈国師宗峯妙超・妙心寺開山無相大師関山慧玄かんざんえげんと続く系譜は「応・燈・関」と呼ばれ、現在の多くの臨済宗諸派に続いています。

境内にある鐘楼脇の通用門には「妙興専門道場」の看板が掲げられ、現在も妙心寺派の専門道場として、雲水達うんすいが厳しい修行に日々励んでいます。修行場のため、通用門より内は拝観・見学はできず、御朱印もありません。現在、重要文化財9件をはじめとして、愛知県指定文化財15件、一宮市指定文化財42件が火災や戦乱・荒廃の危機を乗り越えて遺されています。



▲ 鐘楼脇の通用門には「妙興専門道場」の看板が...

※ 勧請開山…自ら開山となることを遠慮し、その師僧などを一種の名誉開山とするもの。



勅使門

「勅使門」(重要文化財)

妙興寺は、明治23年の大火災、同24年の濃尾大震災で多くの建物を失っていますが、勅使門は、創建当初より残る唯一の遺構です。門には「國中無雙禪刹」の額が掲げられ、文和2年(1353)に北朝第4代後光厳天皇より賜ったと伝わります。

「鐘楼」(県指定文化財)

4本支柱の2階建て、切妻屋根を銅版で葺きます。漆喰塗の白壁が目を引きまします。昭和47年の解体修理の際に見つかった棟木の墨書銘には、「元禄式年己巳潤正月吉日」「大檀那源光友卿」とありました。現存する鐘楼は近世の様式なので、元禄2年(1689)の再建と考えられます。光友とは尾張徳川家2代藩主です。



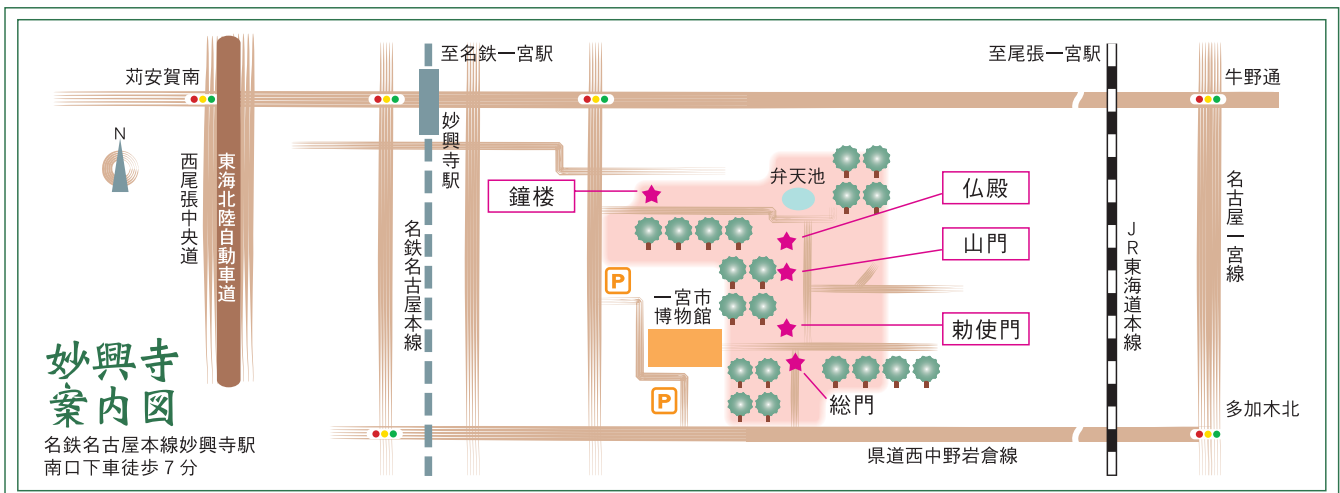
鐘楼



仏殿

「仏殿」「山門」等 (市指定文化財)

勅使門、山門、仏殿が一直線上に置かれ、総門をやや東側に配置します。これは山門から直接見通しされないようにするためといわれます。仏殿、山門等が直線に並ぶのは、禅宗寺院様式の典型です。妙興寺と隣接する一宮市博物館に、30分の1の「妙興寺復原模型」(表紙の写真)があります。明治13年刊『尾張名所図会』後編巻一の「妙興寺」図などを参考に江戸時代後期の妙興寺伽藍の様子が復原されており、現在の様子と比較すると大変興味深いものです。



妙興寺案内図

名鉄名古屋本線妙興寺駅
南口下車徒歩7分

「俳句を始めたいのですが」とよく言われます。俳句は難しいものだと思っている方がたくさんおられますが、そんなことはありません。

一宮市でも俳句クラブは各所にあり、それぞれ会員の皆さんが活躍しておられます。そのひとつに「一宮市民俳句教室」があります。開設以来、早くも30年を越えましたが、一宮スポーツ文化センターで毎月1回第4日曜日(時により曜日の変更があります)の午後を開いています。

ここでは、皆さんが当季雑詠3句を持ち寄り、それを各々が選考し、被講者がこれを読み上げ指導者が講評しています。

初めての方も、ただ見学に来られるだけでなく2回・3回と顔を出され、そのうちにご自分で五・七・五と字数を数えながら出句されるようになり、その句の講評添削を受け「石の上にも三年」のたとえのごとくご自身の心境を句に詠まれ発表されています。

今では年に2回、七夕まつりと秋の一宮市芸術祭に参加し、俳句大会を催しています。

また、年に1回俳句吟行会も行なって、一緒に各地へ出掛け、同じ場所でそれぞれが俳句を詠み、どんな表現をされるか。これも楽しみのひとつになっています。

これからは、尾西・木曾川地区の人々とも交流を図り、より発展していきたいと思っています。ご年配の方はもとより、若い人にも是非この教室に来ていただき、一刻を皆さんと楽しんでください。会員一同お待ちしております。



◀ 教室風景

【問合せ先】坂井 斉 ☎73-5504

「玉香会」は、楽しくお茶に親しんでいる仲間が集まる会です。

この地方は40年程前、野良仕事にも抹茶を持って行くほど、お茶の盛んな土地でした。しかし生活環境などの変化により、各家庭でもお茶を点てることが少なくなって来ました。そんな中、少しでも地域の沢山の方々にお茶の楽しさを味わい、親しんでいただきたいと思っています。

今日のように、ストレスの多い社会で生活する私達が、ほんのひととき、何もかも忘れて稽古をする時間はとても楽しいものです。

稽古に励むのは当然ですが、茶道を勉強する過程で得る物はその他にも沢山あります。例えば、お茶碗を始め炭に至るまで、夫々の匠に依って丹精込めて作られていることに気がきます。高価な物でなくても大切にし、使わせてもらえることに感謝、尊敬の念を持って扱う心がまえを養うことができます。また、季節の移り変わりをより楽しく感じられる事などがあります。

茶道は「お茶をもてなし、もてなされる」事だと言います。それは他人への思いやり、つまり愛情と尊敬の念がなければ成り立ちません。これらの事が人間形成にもつながるものと信じています。

尾西お茶会の場を借り、地域の方々にお茶を楽しんでいただける事は、私達にとって最高の喜びです。これは家族への心配り、ひいては思いやりのある社会への貢献にもつながると信じ、これからも茶道文化の伝承に尽力していきたいと思っています。



◀ 初釜風景

【問合せ先】浅野 洋子 ☎62-4881

私たちの一宮謡曲同好会は、以前から当地区にあったいくつもの謡曲愛好者のグループが昭和30年頃になって、皆で横の連絡を取り合っで一緒に一日を楽しむ会を催そうということで始まり今日に至っています。

現在では13グループの約170人で構成され、春4月と秋10月に素謡や仕舞などで構成する謡曲大会を一宮市芸術祭参加行事として催しています。演じ物にはその内容によって神を扱う物、修羅物、女鬘物、もの狂い物、鬼が出てくる物など5つのパターンがあります。約200曲の作品から時節、曲柄を考え各会の希望を調整して番組を決めています。

謡曲は室町時代に観阿弥・その子世阿弥などによって作られました。囃子で拍子を取り、舞いを演じ、謡い、狂言も加えて劇に厚みをつけたのが「能」です。その中でも「素謡」はシテ、ワキ、ツシ、地謡と言った役割に従って、正座して劇中人物になりきって吟謡します。一方「仕舞」は能の中でも劇的な一部や印象深いところを切り取っ

て、謡いに合わせて舞うものです。その仕舞に、大鼓、小鼓、太鼓、笛の囃子を加えたものが「舞囃子」といいます。

一宮市芸術文化協会には、相生・中日文化会という団体名で加入しており、一宮謡曲同好会とは別にそれぞれの先生のもとで日夜稽古にはげみ、発表会など活発に活動しております。名古屋城前にあります名古屋能楽堂でも、私たちのグループをよく見かけることが出来ます。皆様も一度参加してみたいかがでしょうか。



◀ 会員の舞囃子

【問合せ先】加藤 寿夫 ☎62-0966

私たちの合唱団は、平成2年に旧尾西市の市制35周年を記念する演奏会を機に、市内の合唱団の有志が集い「尾西市民合唱団」として誕生し、かれこれ20年を迎えようとしています。現在団員は40余名。男性10名を含む混声合唱団です。平均年齢は60歳を越えていますが、皆若々しく歌声にもハリがあります。ご夫婦での参加も3組あり夫婦円満の秘訣はコーラスに有りとか…。

名古屋二期会の加藤智先生の指導で、ハーモニにふくらみが出て、大人の情感が出せる合唱団に育ちつつあります。

平成16年には、尾西市制50周年記念事業「第九演奏会」で、加藤先生を中心に役員が実行委員を務めました。歌い終わったあとの感激は、今でも忘れることなく思い出されます。翌年の新市誕生記念「第九演奏会」にも参加し、ほとんどの団員が「第九」の経験者です。合併を機に団名も「尾西混声合唱団」と改名し、気分も新たに練習をしています。

演奏活動は、一宮合唱祭、尾西芸能祭、尾西音

楽祭、コーラスフェスタなど、市内で開催される音楽祭にほとんど参加しています。

団の組織は、団長・副団長を始め、書記・会計・演奏会の係りと、全員が何らかの役を受け持つという全員参加型で運営しています。親睦の係りもあり、バスハイクや食事会も楽しんでいます。

団のモットーは、「楽しく歌う」こと。練習は、月3回。土曜日の夜7時～9時までの2時間、尾西生涯学習センター西館で行っています。歌が好きな仲間を大募集中です。体験入団もありますので、是非!!お待ちしております。



◀ 一宮合唱祭

【問合せ先】足立 重喜 ☎62-6607

文化情報



「読書」 三輪清弘

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

☎(46)3215

特別展「いまあざやかに 丸井金鏡展」

丸井金鏡展

日時 ● 4月26日(土)～6月1日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館)

内容 ● 一宮市北方出身の日本画家

丸井金鏡の魅力あふれる作

品を展示。

観覧料 ● 一般 500円

高大生 300円

小中生 200円

市内小中生・市内在住65

歳以上無料

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 花を愛でる

ー心に咲く花々を描いてー」

日時 ● 4月8日(火)～7月13日(日)

午前9時～午後5時(入館

は午後4時30分まで、月曜

休館)

内容 ● 各年代の描かれた花の作品

を展示し、その魅力に迫り

ます。

観覧料 ● 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

市内小中生・市内在住65

歳以上無料

こどもワークショップ

「美術館たんけん」

日時 ● 5月24日(土)

① 午前10時～正午

② 午後2時～4時

内容 ● 美術館の裏側を探検しながら見学します。

対象 ● 小学生

参加料 ● 無料

申込み ● 往復ハガキがファックスで美術館へ申し込み。

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

歴史講座

「美濃路探訪～春・尾張編～」

日時 ● ① 5月11日(日)

午後1時30分～3時

② 5月25日(日)

午前9時～午後4時30分

内容 ● 江戸時代の主要街道美濃路について、歴史と現在の様子

子を現地実習で学ぶ講座。

申込み ● 応募期間中に資料館へ直接、またはハガキにて申込みを受け付け。

(市広報でお知らせします。)

尾西図書館

☎(62)8191

「ストーリー・テリング講習会」

日程 ● 6月19日(木)

内容 ● お話を語る楽しさを学ぶ。
定員 ● 50名
参加料 ● 無料

青年の家

☎(73)2400

ふれあいプラザ「盆踊り講習会」

日時 ● 6月14日・21日・28日

毎週土曜日

午後7時～8時30分

対象 ● 小学生以上

参加料 ● 無料(教材費100円)

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

名作シネマ「夕風の街 桜の国」とロビーコンサート

日時 ● 5月17日(土) 午後2時～

入場料 ● 前売500円

当日800円(全席自由)

未就学児の入場はご遠慮願います。

ロビーコンサートは無料

《お詫びと訂正》

昨年12月に発行しました第3号11ページ、愛知県文連美術展日本画の部入選者 今枝昭さんの氏名に誤りがありました。ここにお詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。



『春の市民短歌吟行会』

日時▼5月13日(火) 午前9時〜
 行先▼イタリヤ村他
 対象▼どなたでも
 参加料▼3,000円(食事つき)
 申込み▼4月21日までに事務局
 (☎84-00013)へ連絡

『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】
 ☎(87)2827
 日時▼4月20日(日) 午前11時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼一宮音楽家協会会員による
 演奏会
 入場料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】
 ☎(73)5221
 日程▼4月20日(日)
 会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)
 内容▼山車からくり・献馬

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】
 ☎(73)5504
 日時▼4月27日(日)・5月25日(日)・
 6月22日(日) 午後1時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳
 句教室委員が指導します。
 (初心者歓迎)

参加料▼無料
 申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】
 ☎(45)8045
 日時▼4月27日(日)・5月25日(日)・
 6月22日(日) 午後1時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼自由吟および課題吟を一宮
 川柳社委員が指導します。
 (初心者歓迎)

参加料▼無料
 申込み▼当日直接会場

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】
 ☎058(391)0725
 日時▼4月27日(日)
 午前9時30分〜
 会場▼産業体育館
 入場料▼無料

『春の市民俳句吟行会』

日時▼5月20日(火) 午前9時〜
 行先▼彦根城他
 対象▼どなたでも
 参加料▼2,000円(食事つき)
 申込み▼事前に事務局(☎84-0
 013)へ連絡

『第2回一宮新総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】
 ☎(84)0013

日時▼6月5日(木)〜8日(日)
 午前10時〜午後5時
 (8日は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼日本画、洋画、彫刻・立体
 工芸、デザイン、書、写真
 の作品
 入場料▼無料

『レインボーコンサート』

【問合せ先 一宮市民吹奏楽団】
 ☎(43)0737
 日時▼6月8日(日)
 午後1時30分〜
 会場▼一宮市民会館
 入場料▼500円 前売400円

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体のイベント情報を募集します。
 発行月3・6・9・12月の前月1日までに、必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項

- ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場
 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先

〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
 または FAX 0586-86-1809

多彩な展覧会を開催

一宮市博物館

一宮市博物館では、本年度も、広く市民の皆様にも美術作品の精華をご観覧いただけるよう多彩な展覧会を開催いたしました。展覧会のなかには、地元作家の方々のご理解とご協力をいただき開催をさせていただいたものもありました。

杉本健吉遺贈記念作品展

画家杉本健吉は98歳でなくなり、ご遺族のご厚意により、博物館に54点の作品を寄贈いただきました。4月28日から5月27日まで、油彩、墨彩、スケッチなどの寄贈作品全てを紹介し、生命感に溢れた味わい深い作品をご観覧いただきました。

2007 一宮美術作家新展



9月1日から17日まで、一宮美術作家協会47人の会員のみなさんが、最新の発想・イメージ

で制作された作品56点を展示しました。会場には、作家の思いが込められた大作が並び、個性豊かな作風をご観覧いただきました。

一宮写真協会28人写真展

9月20日から30日まで、「出会い 感動 この時を撮る。」をテーマに熱い思いを込められた作品86点を展示し、人、動物、植物そして自然との出会いに会場の方々も感動された展示会でした。



妙興寺文化財展

平成19年は妙興寺にゆかりのある大応国師没後700年・南化国師没後400年の節目にあたり、これを記念して、10月6日から14日まで、寺外で初公開となる木造大応国師坐像をはじめ、肖像画、肖像彫刻、袈裟などの重要文化財、県・市指定文化財を含む31点を展示しました。

没後50年川合玉堂名品展



平成19年は日本画の巨匠・川合玉堂の没後50年の節目にあたり、これを記念して、10月20日から11月18日まで特別展を開催いたしました。日本の自然を詩

情豊かに描きあげた名品35点を展示し、若いころから晩年までの画風の変遷をご観覧いただきました。あわせて、玉堂記念木曾川図書館でも新収蔵作品8点の初公開を含め約20点を紹介しました。

2007 一宮市現代作家美術秀選展

12月1日から16日まで、第65回一宮市美術展での日本画、洋画、彫刻・立体、工芸、デザイン、書、写真の依頼出品者の選りすぐり作品や市長賞受賞者の作品など作家の熱意あふれる79点を展示しました。この時期、博物館周辺の紅葉が鮮やかさを増し、落ち着いた雰囲気の中でご鑑賞いただきました。



博物館ではこうした多彩な展覧会を開催し、美術文化を発信させていただくことができました。今後とも、美術振興のため皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

[題 字] 武 山 翠 屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809